

こどものはったつ相談室



子どもの健やかな発達や適切な教育方法の理解を深めるため、令和元年度、焼津市内に開設された大井川中学校通級指導教室「はんの木」^{きたざわひろえ}北澤広恵先生によるコラムを掲載しています。



問合先 こども相談センター

TEL 6 2 6 - 1 1 6 5 FAX 6 2 6 - 2 1 8 7

第2回テーマ「思春期の子どもへの関わり方～子どもに考えさせよう～」

■大井川中学校通級指導教室

「はんの木」の名前の由来

令和元年6月の開級式での校長先生の話より「大井川の地域から南を『榛原(はいばら)』と言いますが、この地区は昔『榛(はん)の木』が生い茂っていた場所です。榛原の『榛(はい)』は『榛(はん)の木』のことです。この力強い木にたとえて、たくましい生徒に育つようお願いをこめて、この教室を『はんの木』と名付けました。」

■4つの点を心掛ける

子どもに考えさせるというのは、「大人が決めない。子どもに決めさせる」ということです。そうは言ってもこれがなかなか難しいですね。「自分で決めていいよ」と言うと、よくあるパターンとして「決められない」「決めようとしなない」「自分の都合のいいように決める」「自分の力量以上のことをするんだと決める」などなど。それで、結局大人が「もう決めちゃうからね」という展開に…。

子どもに決めさせる時に、私が心掛けていることは4つあります。

① 子どもが取り組みそうな事柄から決めさせる

決める練習、成功体験作りです。

② 決められない子には選択肢を作る

選択肢は3つ以内。それ以上は多過ぎます。

③ 数字を入れ、ゴールをイメージさせる

「やるだけやる」などではなく、勉強なら「25 ページまでやる」「5問やる」など、ゴールが見えるように。

ただし、「30 分〇〇する」など時間で区切ると、だらだら作業になりがちで時間だけが経過します。

④ 視覚化する

決めたことを子どもが書き、子ども部屋、リビング、トイレなどに貼る。

■子どもに決めさせる機会をつくる

小学校高学年からは、学習や活動内容がより難しくなり、量も増えます。

でも、1日に使える時間は限られています。いかに有効に時間を使うか、使えるかが重要で、その主体は子ども本人です。そのためには、小さい頃から「子どもに考えさせる。決めさせる」場面を意図的に設定し、「人任せにしない。自分がやる」という態度を育てていきましょう。それが、思春期以降にとっても必要となる「自分自身を振り返る力(態度)」と「自分と折り合える力」につながります。